

グローバル・ガバナンス学会  
第 10 回研究大会

開催ご案内

日時：2017 年 5 月 13 日(土)・14 日(日)

会場：名古屋大学情報学部棟 4 階

## グローバル・ガバナンス学会 第 10 回研究大会のご案内

グローバル・ガバナンス学会第 10 回研究大会のプログラムをご案内します。

今年から研究大会は年一回になりました。またそれに伴って、大会日程は 2 日間といたしました。日程が長くなった分、多様なテーマのセッションが組まれており、それは本学会が広範な研究領域をカバーする学会であることの現れだと思えます。また今回は、両日に渡り共通論題部会を市民公開セッションとして社会との接点を広げる一方、会員限定 BBM（ブラウン・バッグ・ミーティング）では中谷元前防衛大臣をお招きするなど、開催方法についても新しい試みに挑戦してみました。

各部会では、人道的問題、通商戦略、国連システムなど、様々なガバナンスの現状とそれに伴う問題を取り上げ、理論的検証と討論を行います。加えて、時間軸の視点から、戦間期、冷戦期など歴史研究に関する部会も企画しました。これらのアプローチからは、グローバル・ガバナンスの全体像の把握とともに、日本の立ち位置や今後の可能性の模索に繋がる知見が得られるものと考えます。

折しも米国ではトランプ政権が誕生し、ヨーロッパでポピュリズムが勢いを得ています。その中で、各国の政治・社会がどのように変化するのか、学界だけではなく広く一般社会で、大きな懸念と関心が持たれています。そこで、二つの共通論題では、トランプ政権と世界のポピュリズムをテーマに、グローバル・ガバナンスの立場から、世界の現状と将来について市民の皆様と一緒に考えてみたいと思います。

今回の研究大会は 10 回目という、ひとつの節目を迎えた大会です。これを機に本学会のさらなる発展を目指して皆さんとともに邁進していきたいと思っています。今後ともご協力のほど、どうぞ宜しくお願いいたします。最後に、本研究大会の準備に当たられた企画委員、実行委員、事務局の会員に改めて感謝申し上げます。

グローバル・ガバナンス学会会長  
渡 邊 啓 貴

5月13日(土)

午前の部会セッション (10:00-12:00)

**部会 1. 人道的ガバナンスの胎動？—戦争被災者・難民・少数民族問題と国際社会の関与—**

**会場：SIS4 教室**

- ・ 上野友也（岐阜大学）「新しい安全保障と新しい集団安全保障—シリア内戦における戦争被災者の保護を事例として—」
- ・ 中山裕美（東京外国語大学）「突発事態とガバナンスの可変性—難民ガバナンスにおける多主体連携の構築—」
- ・ 玉井雅隆（立命館大学）「保護されないマイノリティとしての移民労働者と欧州—ナショナル・ガバナンスとグローバル・ガバナンスの狭間で—」
- ・ 討論者：柄谷利恵子（関西大学）
- ・ 司会者：太田宏（早稲田大学）

**部会 2. EU の通商戦略と日 EU 関係の今後**

**会場：SIS2 教室**

- ・ 高江洲睦子（早稲田大学）「EU と国際通商ガバナンス」
- ・ 明田ゆかり（外務省）「持続可能な貿易ガバナンスの外縁と深さの模索：日 EU・FTA 交渉を手がかりに（仮）」
- ・ 討論者：武田健（東海大学）
- ・ 司会者・討論者：白井陽一郎（新潟国際情報大学）

午後の部会セッション (13:00-15:00)

**部会 3. 自由論題部会**

**会場：SIS2 教室**

- ・ 山川卓（立命館大学）「『ロマ包摂の十年』プロジェクトと国際的なマイノリティ保護」
- ・ 南波慧（一橋大学）「欧州域外国境における人道危機の安全保障化—海難救助活動とブローカーとの闘い—」
- ・ 原田徹（同志社大学）「EU ガバナンスと福祉国家改革の政治—年金・健康保険関連 EU 指令の政治過程での政党アクターの選好表出パターンを中心に—」
- ・ 討論者：福田耕治（早稲田大学）
- ・ 司会者：市川颯（関西学院大学）

#### 部会 4. 東アジアの「危機の 20 年」—戦間期国際制度の再検証

会場：SIS4 教室

- ・ 後藤春美（東京大学）「国際連盟の社会人道面での活動と東アジアの帝国秩序」
- ・ 三牧聖子（高崎経済大学）「アジアにおける『戦争違法化』の意味」
- ・ 討論者：滝口剛（大阪大学）
- ・ 司会者・討論者：菅英輝（京都外国語大学）

BBM（15:00-16:20：原則会員限定セッション）

会場：SIS3 教室

- ・ 基調講演・討論 中谷元（衆議院議員、前防衛大臣）「自衛隊のグローバルな意義」
- ・ 本多倫彬（キャノングローバル戦略研究所）「日本流平和構築アプローチの形成」
- ・ 宮下大夢（早稲田大学）「アジアでの積極的平和主義」
- ・ 司会者：平川幸子（早稲田大学）

共通論題 1.（16:30-18:30）「アクターとしてのトランプ政権」（市民公開セッション）

会場：SIS3 教室

- ・ 大矢根聡（同志社大学）「トランプ流『保護主義』の意義と国際的インパクト」
- ・ 中山俊宏（慶應義塾大学）「トランプ政権の対外政策」
- ・ 小尾美千代（南山大学）「環境・エネルギーからの視点」
- ・ 討論者：松井康浩（九州大学）
- ・ 司会者・討論者：山本武彦（早稲田大学）

5月14日（日）

午前の部会セッション（9:30-11:30）

部会 5. 冷戦期社会主義勢力の国際秩序観

会場：SIS2 教室

- ・ 神田豊隆（新潟大学）「社会民主主義勢力の国際関係史—社会主義インターナショナル・アジア社会党会議・日本社会党—」
- ・ 松村史紀（宇都宮大学）「中国とソ連の国際戦略—1950年代のアジア地域を中心に—」
- ・ 討論者：香川敏幸（慶應義塾大学）
- ・ 司会者・討論者：宮脇昇（立命館大学）

## 部会 6. 岐路に立つ国連システム

### 会場：SIS4 教室

- ・ 庄司真理子（敬愛大学）「紛争予防規範と平和構築規範の複合と交錯—国連におけるマルチステークホルダー・プロセスの生成過程を例として—」
- ・ 山田哲也（南山大学）「グローバル・ガバナンス論における安全保障の位相」
- ・ 安藤由香里（大阪大学）「国際機構は『人の移動』にどのように取り組んできたのか」
- ・ 討論者：山本慎一（香川大学）
- ・ 司会者・討論者：本多美樹（法政大学）

総会（11:30-12:15）

会場：SIS3 教室

ランチ懇親会（12:15-13:50）

会場：シェ・ジロー

会費：3000 円

\* 研究大会参加の事前登録の際に受け付けておりますが、当日、研究大会の受付でもお申し込みいただけます。皆さまの積極的な参加をお待ち申し上げます。

## 共通論題 2.（14:00-16:00）「ポピュリズム比較と国際秩序」（市民公開セッション）

### 会場：SIS3 教室

- ・ 前嶋和弘（上智大学）「トランプはポピュリストか—世論とアメリカ—」
- ・ 日下渉（名古屋大学）「『義賊』の民主主義は可能か—フィリピン、ドゥテルテ大統領の社会構築—」
- ・ 杉田弘毅（共同通信）「ポピュリズムと地政学」
- ・ 討論者：中村登志哉（名古屋大学）（ドイツの視点から）
- ・ 司会者・討論者：渡邊啓貴（東京外国語大学）（フランスの視点から）

## 交通アクセス

J R名古屋駅から地下鉄東山線、名城線乗継で名古屋大学駅へ約 25 分



## 学内アクセス

地下鉄名城線名古屋大学駅下車、会場の情報学部（旧情報文化学部）棟へは1番出入口から徒歩3分

